

平成28年1月21日

事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 熊本市教育委員会

所 在 地 熊本県熊本中央区手取本町1番1号

代表者職氏名 教育長 岡 昭二

平成 年度英語教育強化地域拠点事業における事業実施計画書を提出します。

1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成28年3月31日

2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	くまもとしりつひつゆうかんこうとうがっこう	ふりがな	あらき たかひさ
学校名	熊本市立必由館高等学校	校長名	荒木 隆久
ふりがな	くまもとしりつにしきがおかちゆうがっこう	ふりがな	こうづま あきひと
学校名	熊本市立錦ヶ丘中学校	校長名	上妻 昭仁
ふりがな	くまもとしりつおのうえしょうがっこう	ふりがな	ながお ひでき
学校名	熊本市立尾ノ上小学校	校長名	長尾 秀樹
ふりがな	くまもとしりつつきでしょうがっこう	ふりがな	おがた こうじ
学校名	熊本市立月出小学校	校長名	緒方 浩二
ふりがな	くまもとしりつやまのうちしょうがっこう	ふりがな	まつもと こういち
学校名	熊本市立山ノ内小学校	校長名	松本 公一

3. 研究内容

(1) 研究開発課題

小・中・高を通じた新たな英語教育に向けて、生涯にわたり4技能を積極的に使えるようになる英語力育成を目指し、小中高一貫した CAN-DO リストの目標設定による評価と授業創りを柱とし、英語教育の研究開発に取り組む。

(2) 研究の概要

- 本市では、富合小中一貫特例校と植木地区8小学校の特例校により、小学1年からの英語教育を研究している。平成27年度からは、植木地区の3中学校も特例校とし、英語教育における小・中の接続について研究を始める。それらの成果と課題を踏まえて、英語教育の早期化と教科化に向けた教育課程の在り方と授業内容を研究する。
- 外国語活動から教科英語への接続の在り方や中学校におけるコミュニケーション能力の育成を目指し、小学校の段階から、「文字」や「綴りと発音の関係」などについて系統的な指導を行い、成果と課題を探る。

- 教科英語でコミュニケーション能力の基礎を培うため、小学校での「読むこと」「書くこと」、「言語に関する知識の身に付けさせ方」を研究・検証する。
- ALT の活用や英語専任教員など、効果的な指導体制の在り方を研究する。また、小中高を通じた CAN-DO リストによる目標設定と指導内容及び方法について、研究を行う。

(3) 現状の分析と仮説等

① 現状の分析と研究の目的

ア 現状の分析

○ 本市の英語教育について

・熊本市北区植木地区 8 校の小学校は教育特例校として、南区富合小中学校は小中一貫特例校として、小学校 1 年生から 6 年生まで英語の授業を行っている。植木地区においては、平成 27 年度から中学校も教育課程特例校となり英語教育の接続の研究を行う。

そのような中で、熊本市中央に位置する地域においても、植木地区や富合小中学校の成果や課題を活かした先進的な取組を行う研究開発を実施し、小学校英語の早期化・教科化に向けてその成果と課題を本市全体に広め、熊本市一体となって研究を進める必要がある。

・本市の全小学校においては、ALT とのティームティーチングの授業を年間 15 回程度行い、文部科学省配付のデジタル教材や本市作成英単語絵カードを活用しながら、楽しく英語を学んでいる。また、6 年生では、文字に興味を持つ児童も少なくない。

・小学校と中学校の連携については、必要性は感じていても、交流等は盛んではなかったが、小学校の研究授業の事前研究会から中学校教員が参加したり、中学校の授業研究会に小学校の教員が参加したりするなど、連携が進んできた。

・中学生にとっては、小学校外国語活動と中学校英語の学習の段差は依然小さくないものがあるが、教員同士の交流を図ることで、段差の解消を図る。

・本市の中学校においては、全校にデジタル教科書を配布し、基礎・基本事項を徹底するとともに、ALT とのティームティーチングの授業（年間 20 回程度）に加え、希望校には複数の ALT を派遣し、ALT と生徒 1 対 1 の本市独自のスピーチテストを行い、英語による表現力とコミュニケーションへの意欲を高めているところである。スピーチテストの参加校は年々増加しているが、年間指導計画への位置づけ等、より効果的なテストの実施をする必要がある。

○ 本地域の学校について

・尾ノ上小学校は、平成 25 年度に「伝え合う力を高める教育活動の創造」をテーマに研究発表を行い、成果として、児童に言葉によるコミュニケーション力が育まれており、英語の専科教員がいるなど、職員の研究体制も確立できている。英語教育強化地域の研究開発の牽引力を持つ小学校である。

・月出小学校は、平成 26 年度に「確かな学力を身につける授業の工夫」をテーマに研究発表を行い、研究推進体制が構築されている。

・各小学校の全国標準学力検査 NRT（平成 26 年度 国語・算数 2 教科）偏差値は全国と比較しやや高い。

- ・錦ヶ丘中学校は、平成23年度に「学力向上」の研究発表会を行い、成果を上げている。生徒も落ち着いており、職員の研究体制も整っている。
- ・錦ヶ丘中学校の全国標準学力検査 NRT における英語の全国偏差値は高く、中学校の目標・内容の高度化に対応できると考えられる。

イ 目的

小学校中学年から外国語活動を開始し、音声に慣れ親しませながら英語活動を楽しませる。そこで養われたコミュニケーション能力の素地を基盤に、高学年において教科英語を開始する。

教科英語では、音声を中心に、綴りと発音の関係に慣れ親しませる。同時に、身近なことについて、基本的な表現を用いて「聞く」「話す」活動を行なうことに加え、「読むこと」「書くこと」を含めたコミュニケーション能力の基礎を養う。言語に関する理解についても研究する。

中学校では、入門段階で綴りと発音の関係を体系的に学習する。そして、主体的に「話す」「書く」などを通じて、互いの考えや気持ちを英語で伝え合う言語活動を展開して、コミュニケーション能力の育成を図る。また、生徒が英語に触れる機会を充実し、中学校の学びを高等学校へ円滑につなげるために、生徒の程度に応じて、授業は英語で行うことを基本とする。

高等学校では、幅広い話題について発表・討論・交渉などを行う言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりするコミュニケーション能力の育成を目指す。

② 研究仮説

ア 手段

- ・外国語活動においては、**Hi, friends ! 1,2** やデジタル教材を活用して、年間指導計画に沿って取り組む。外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。
- ・4年生からは、フォニックスソングを取り入れながら、「綴りと発音の関係」について音声的に慣れ親しませる。
- ・教科英語においては、絵本を活用しながら、物語の場面を通して、文字に親しませる。また、文科省の補助教材や本市独自の補助教材等を活用しながら、アルファベットを書くことに慣れ親しませる。
- ・「綴りと発音の関係」については、中学年から導入するフォニックスソングを通じて慣れ親しませた上で、引き続きフォニックスソングを系統的に活用し「綴りと発音の関係」について体験的な理解を深める。
- ・自分との関係性が強い身近な話題について、英語を「聞く」「話す」活動を ALT 等と行うことを通じて、コミュニケーション能力の基礎を培う。
- ・中学校においては、市販の教材や本市独自の学びノートフォニックス版を活用しながら、綴りと発音の関係を身に付けさせる。また、小学校の指導を十分に踏まえた授業を行う中で、自分との関係性が強い内容について、互いの考えや気持ちを英語で伝え合うコミュニケーション能力の育成を図る。
- ・中学校では、デジタル教材を効果的に活用したり、英語で授業を行うなどしたりして、生徒が英語に触れる機会の充実を図る。その際、言語活動の充実を図った授業を行う。
- ・高等学校においては、中学校の指導を踏まえた、生徒の英語による言語活動が中心の授業への改善を図る。

イ 期待される効果

綴りと発音の関係、初歩的な「読み」「書き」を習得することにより、小学校卒業時には、初歩的英語運用力が身に付くとともに言葉の持つ働きを知り、中学校の英語学習に意欲を見せる。また、学級経営の改善につながり、間違いを恐れず学習する児童が育成される。

中学校では、綴りと発音の関係に理解を深め、実践につなげながら、主体的な英語学習者として、より高度な語彙力、コミュニケーション能力の育成が可能になり、総合的な英語力の向上へつながる。（英検取得率の向上、NRT 全国偏差値の向上）

高等学校では、言語活動を通して、自信を持って英語を聞いたり話したりでき、生涯にわたって英語を学んでいく意欲を持った生徒の育成が図られる。

③ 研究成果の評価方法

- 単元ごとに CAN-DO リストの学習到達目標と照らし合わせた評価を行う。
- 事前実態調査と毎年度末の実態調査（児童、生徒、教員、保護者）と調査結果の分析
- スピーキングテスト（小・中学校）による英語力の調査と分析、経年比較、他校との比較
- 外部試験（児童英検・英語検定）による英語力の調査と分析、経年比較
- 全国標準学力検査（NRT）による英語学力の調査、経年比較、他教科への影響等の分析

（4）研究開発型 ※平成27年度新規採択件については、平成26年度は斜線を引くこと。

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次 (H26)	第二年次 (H27)	第三年次 (H28)	第四年次 (H29)
①小学校 外国語活動型	第3～6学年 1 コマ	第3、4学年 1 コマ	第3、4学年 1～2 コマ	第3、4学年 1～2 コマ
②小学校 教科型	0 コマ	第5、6学年 2 コマ	第5、6学年 2 コマ	第5、6学年 2～3 コマ

（5）研究計画 ※平成27年度新規採択件については、第一年次から第三年次まで記載すること。

第一年次～第四年次、校種別

①第1年次

英語教育強化地域拠点小中高連絡協議会を設置し、小学校・中学校・高等学校が連携して具体的に指導体制づくりの準備と研究を進める。

【小学校】

- 小学校英語の全体計画の作成
- 各学年における CAN-DO リストによる学習到達目標設定とそれを踏まえた年間計画等の作成、評価方法などの研究
- 各学校において校内研究としての位置付け
- 研究校視察、研修、インターネット等を通して実践事例等の情報収集
- 音声と文字の関係（フォニックス）について指導法や活動の研修

- 「読むこと」「書くこと」についての独自教材の開発（作成中）
- 中学校区内小学校公開授業の実施と中学校の公開授業に参加（幼小中連携の日）
- 小学校授業研究会（外国語活動）の参加と中学校授業研究会（英語）に参加（学びわくわく授業研究会）
- 本市全小学校・中学校・市立高校を対象とした公開授業
- 各学校の環境整備（ALT の派遣日数の増加、英語教室の整備など）
- アンケート調査（実態調査）
- 授業の実施
 - 第3学年・・・Hi, friends!1 を参考にオリジナルの指導計画に基づき、9月から月2回程度「外国語活動型」を実施
 - 第4学年・・・Hi, friends!1 を参考にオリジナルの指導計画に基づき、9月から月2回程度「外国語活動型」を実施
 - 第5学年・・・Hi, friends!1 を活用した外国語活動1コマ
 - 第6学年・・・Hi, friends!2 を活用した外国語活動1コマ
- 小・中学校教員への研修の準備

次年度からの研修をより良いものにすることや今後の本市における小中高を通じた英語教育の高度化に向けた取組を推進するために、小中の英語教育推進リーダーを含む小学校教員5人、中学校英語教員5人の10人による英語教育推進委員会を設置し、1月、2月にそれぞれ会を実施した。

【中学校】

- 年間7回のコミュニケーション能力の育成に関する校内研修の実施
- 時数増に伴った CAN-DO リストによる目標設定と年間指導計画の見直し
- 給食時間の放送部員による英語アナウンス放送
- 放課後や夏休みを利用した「学びノート」活用による学びの場の設置
- 小学校授業研究会の参加と中学校授業研究会（英語）に参加（学びわくわく授業研究会）
- 中学校区内公開授業の実施と小学校の公開授業に参加(幼小中連携の日)
- 熊本市イングリッシュキャンプの優先参加
- ALT の派遣回数的大幅な増加及びそれに伴う効果的な活用
- 中学1、2年生全員を対象とした英語語検定の実施及び結果分析
- ALT による熊本市スピーキングテストの実施

【高等学校】

- 必由館高校普通科国際コースを核とした本事業の推進
- ALT の派遣回数の増加に伴う指導計画の工夫
- 錦ヶ丘中学校との中高連携の強化推進
- 英検等、外部機関による学習者の英語評価及び結果分析
- 小学校、中学校の公開授業と授業研究会に参加

第2年次

【小学校】

- 3, 4年生の「外国語活動型」35時間、5, 6年生の「教科型英語」70時間
 - 第3学年・・・Hi, friends!1 を活用した「外国語活動型」1コマ
 - 第4学年・・・Hi, friends!1 を活用した「外国語活動型」1コマ
 - 第5学年・・・Hi, friends!1,2 及び文部科学省作成の補助教材やオリジナルワークシート等を活用した「教科型英語」2コマ（70H）
 - *独自教材マイABC パスポート活用
 - 第6学年・・・Hi, friends!2 及び文部科学省作成の補助教材やオリジナルワークシート等を活用した「教科型英語」2コマ（70H）
 - *独自教材マイABC パスポート活用
- アルファベット文字の認識や日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴等についての指導の在り方（フォニックスの導入や文科省の補助教材活用）
- 4年生～6年生において、フォニックスソングを活用してフォニックスに慣れさせ、親しみを持たせる。高学年におけるフォニックスの導入
- H28年度の3, 4年生の外国語活動におけるモジュール授業の年間指導計画作成
- 3学期に公開授業実施
- チャレンジタイムの開発（植木地区小学校のスピーチテスト改訂）と実施
- アンケート調査の実施と分析
- 評価についての研究・検証
- 英語教育推進リーダーの養成（1人）。合計2人となる。
- 英語教育推進委員会の開催
 - 教員研修を含めた、小中高を通じた英語教育の高度化に向けた取組を協議する。
 - 英語教育推進委員会（小・中学校各5人、市立高校2校より各1人で構成）を4月、7月、12月に実施する。
- 教員研修
 - 24人の小学校教員に英語教育推進リーダーによる研修を5月（2h）、8月（6h）、1月（6h）に実施する。なお、1月の研修では、H27年度に養成する英語教育推進リーダーも参加する。
- 教科等主任会、英語教育研究協議会で強化地域拠点事業の取組について発表、研究協議を行う。
- 英語教育推進リーダーを、校内研修の講師として派遣し、各学校においても英語教育改革に備えていく。

【中学校】

- 小中高連携の要として、小学校と高等学校との積極的な関わり及び連携強化
- 小学校の教科型英語学習内容を把握した上での指導研究と実践
- 小学校における「教科型」英語の授業交流と授業研究
- 小学校「教科型英語」を経験した生徒向けの学習内容の高度化等の研究と指導計画
- 英語の授業における英語使用量の増加

- ALT の系統的効果的活用の継続研究
- イングリッシュキャンプの優先参加及びイングリッシュビデオコンテストへの取組
- ALT による熊本市スピーキングテストの実施、比較分析
- 評価についての研究・検証
- 英語教育推進リーダーの養成（1人）。合計2人となる。
- 英語教育推進委員会の開催
 教員研修を含めた、小中高を通じた英語教育の高度化に向けた取組を協議する英語教育推進委員会（小・中学校各5人、市立高校2校より各1人で構成）を4月、7月、12月に実施する。
- 教員研修
 24人の中学校教員に英語教育推進リーダーによる研修を5月（2h）、8月（6h）、1月（6h）に実施する。なお、1月の研修では、H27年度に養成する英語教育推進リーダーも参加する。
- 教科等主任会、英語教育研究協議会で強化地域拠点事業の取組について発表、研究協議を行う。
- 英語教育推進リーダーを、校内研修の講師として派遣し、各学校においても英語教育改革に備えていく。

【高等学校】

- 必由館高校普通科国際コースを核とした本事業における PDCA サイクルの確立
 校長（H27年度より英語の免許を持った校長が就任）を中心とした研究推進に向けた組織力の強化を図る。担当指導主事の随時訪問による検証及び指導、助言を行う。
 同時に、月に1度開催の担当者会や学期に1度開催する拡大推進委員会（担当者、研究主任、教務主任）、運営指導委員会で検証及び協議を重ねていく。
- 錦ヶ丘中学校との効果的な中高連携の研究
 英語教育における小中高の円滑な接続を図るためのコーディネーターとしての尾ノ上小学校と錦ヶ丘中学校に在籍する英語教育推進リーダー及び指導主事の訪問による指導体制や研究推進上の課題等についての協議を踏まえた研究を推進する。
- コミュニケーションを重視した英語の授業内容の研究と実践
- 小・中学校との授業交流及び授業研究
 生徒が幅広い話題について、英語で発表、討論、交渉などを行う言語活動を体験する中で、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーションを高めるための授業改善を図る。
 そのために、コーディネーターや指導主事及び担当者の随時訪問を行い、情報の共有をはじめ、意見交換や協議を行いながら授業改善を図る。
- 英検等外部機関による学習者の英語評価及び結果分析、経年比較
 国際コースを含めた普通科全員の英検受験を実施する。その外部評価を生徒と教員で共有しながら、生徒の学習意欲の向上や教師の授業改善につなげていく。
- 評価についての研究・検証
 CAN-DOリストに伴う学習到達目標に向けた授業改善、評価の在り方については、コ

ーディネーターや指導主事の随時訪問、担当者会、運営指導委員会の中で協議をしていく。

○ 公開授業の実施

小中学校の先生へ向けた公開授業を実施し、小中高を通じた新たな英語教育についてのイメージを持たせ、それぞれの校種での授業実践や推進体制及び推進方法を改善する一助とする。

○ 英語教育推進委員会への参加

市立高校2校より英語教員各1人が委員として参加し、協議を行う。

○ 中学校英語教員対象の年3回の研修や教科等主任会、教育課程研究協議会への参加。

市立高校2校より英語教員各1人が参加し、協議に参加し、高校の取組について発表する。

③第3年次

【小学校】

○ 3, 4年生の「外国語活動型」35時間、5, 6年生の「教科型英語」70時間

第3学年・・・Hi, friends! 1, 2 を活用した「外国語活動型」1～2コマ

ALT と HRT によるフォニックスソングの導入

第4学年・・・Hi, friends! 2 を活用した「外国語活動型」1～2コマ

文部科学省作成予定の補助教材や独自教材による「外国語活動型」1コマ

ALT と HRT によるフォニックスの導入

第5学年・・・文部科学省作成予定の補助教材を活用した「教科型英語」2コマ

*独自教材マイ ABC パスポート活用

第6学年・・・文部科学省作成予定の補助教材を活用した「教科型英語」2コマ

*独自教材マイ ABC パスポート活用

○ 3年生から6年生にかけてのフォニックスの系統的な指導

○ 学びわくわく小学校授業研究会における研究授業と授業研究会

○ ALT によるチャレンジタイムの実施と比較分析

○ アンケート調査の実施と比較分析

○ 評価についての研究・検証

○ 英語教育推進リーダーの養成（1人）。合計3人となる。

○ 英語教育推進委員会の開催

教員研修を含めた、小中高を通じた英語教育の高度化に向けた取組を協議する英語教育英語教育推進委員会（小・中学校各5人、市立高校2校より各1人で構成）を4月、5月、6月に実施する。

○ 教員研修

新たに48人（推進リーダー1人につき24人）の小学校教員に英語教育推進リーダーによる研修を5月（2h）、7月（6h）、8月（6h）に実施する。

○ 教科等主任会、英語教育研究協議会で強化地域拠点事業の取組について発表、研究協議を行う。

○ 教科等主任会、英語教育研究協議会で強化地域拠点事業の取組について発表、研究協議を行う。

- 英語教育推進リーダーを、校内研修の講師として派遣し、各学校においても英語教育改革に備えていく。

【中学校】

- 本事業における PDCA サイクルの見直し及び小中高連携の更なる強化
- 小学校の「教科型」英語を学習した生徒への指導内容の研究と実践
- 英語による授業実践
- 中学生全員に英語検定を実施、結果の経年分析と他校との比較分析
- ALT の系統的、効果的活用の研究の深化
- イングリッシュキャンプの優先参加及びイングリッシュビデオコンテストへの取組
- ALT による熊本市スピーキングテストの実施と比較分析
- 評価についての研究・検証
- 英語教育推進リーダーの養成（1人）。合計3人となる。
- 英語教育推進委員会の開催
 教員研修を含めた、小中高を通じた英語教育の高度化に向けた取組を協議する英語教育推進委員会（小・中学校各5人、市立高校2校より各1人で構成）を4月、5月、6月に実施する。
- 教員研修
 新たに48人（推進リーダー1人につき24人）の中学校教員に英語教育推進リーダーによる研修を5月（2h）、7月（6h）、8月（6h）に実施する。
- 教科等主任会、英語教育研究協議会で強化地域拠点事業の取組について発表、研究協議を行う。
- 英語教育推進リーダーを、校内研修の講師として派遣し、各学校においても英語教育改革に備えていく。

【高等学校】

- 必由館高校普通科国際コースを核とした本事業における PDCA サイクルの深化
- 錦ヶ丘中学校とのより効果的な中高連携の確立
- より高いコミュニケーション能力を目指したコミュニケーション重視の英語の授業内容の研究の深化及び実践
- 小・中学校との授業交流及び授業研究、指導計画研究
- 英検等外部機関による学習者全員の英語評価及び結果分析、経年比較
- 評価についての研究・検証
- 英語教育推進リーダーの養成（1人）
- 英語教育推進委員会に市立高校2校より英語教員各1人が委員として参加し、協議を行う。
- 英語教育推進委員会への参加
 市立高校2校より英語教員各1人が委員として参加し、協議に加わる。
- 中学校英語教員対象の年3回の研修や教科等主任会、教育課程研究協議会にも市立高校2校より英語教員各1名が参加し、高校の取組を発表する。

④第4年次

【小学校】

- 小学校の公開授業と実践発表
- 研究のまとめ
- 3, 4年生の「外国語活動型」70時間、5, 6年生の「教科型英語」70時間
 - 第3学年・・・Hi, friends!1,2を活用した「外国語活動型」2コマ
ALTとJTEによるフォニックスソングの導入
 - 第4学年・・・文部科学省作成予定の補助教材又は独自教材による「外国語活動型」2コマ
ALTとJTEによるフォニックスの導入
 - 第5学年・・・文部科学省作成予定の補助教材を活用した「教科型英語」2～3コマ
*独自教材マイABCパスポート活用
 - 第6学年・・・文部科学省作成予定の補助教材を活用した「教科型英語」2～3コマ
*独自教材マイABCパスポート活用
- 3年生から6年生にかけてのフォニックスの系統的な指導
- ALTによるチャレンジタイムの実施と経年比較分析
- アンケート調査の実施と比較分析
- 評価についての研究・検証
- 英語教育推進リーダーの養成（1人）。合計4人となる。
- 英語教育推進委員会の開催
教員研修を含めた、小中高を通じた英語教育の高度化に向けた取組を協議する英語教育推進委員会（小・中学校各5人、市立高校2校より各1人で構成）を4月、5月、6月に実施する。
- 教員研修
新たに72人（推進リーダー1人につき24人）の小学校教員に英語教育推進リーダーによる研修を5月（2h）、7月（6h）、8月（6h）に実施する。
- 教科等主任会、英語教育研究協議会で強化地域拠点事業の取組について発表、研究協議を行う。
- 英語教育推進リーダーを、校内研修の講師として派遣し、各学校においても英語教育改革に備えていく。

【中学校】

- 小学校及び中学校の公開授業と実践発表
- 小学校の「教科型」を学習した生徒への指導内容の研究と実践
- 英語による授業実践の深化
- 中学生全員に英語検定を実施、結果の経年分析と他校との比較分析
- イングリッシュキャンプの優先参加及びイングリッシュビデオコンテストへの取組
- 熊本市スピーキングテストの実施と経年比較、他校との比較分析
- 標準学力検査NRTによる学力分析と他教科への影響の分析
- 研究のまとめ

- 評価についての研究・検証
- 英語教育推進リーダーの養成（1人）。合計4人となる。
- 英語教育推進委員会の開催
 教員研修を含めた、小中高を通じた英語教育の高度化に向けた取組を協議する英語教育英語教育推進委員会（小・中学校各5人、市立高校2校より各1人で構成）を4月、5月、6月に実施する。
- 教員研修
 新たに72人（推進リーダー1人につき24人）の小学校教員に英語教育推進リーダーによる研修を5月（2h）、7月（6h）、8月（6h）に実施する。
- 教科等主任会、英語教育研究協議会で強化地域拠点事業の取組について発表、研究協議を行う。
- 英語教育推進リーダーを、校内研修の講師として派遣し、各学校においても英語教育改革に備えていく。

【高等学校】

- 英語教育推進委員会への参加
 市立高校2校より英語教員各1人が委員として参加し、協議を行う。
- 英語教育推進リーダーによる市立高校2校の英語教員を対象とした研修実施
- 中学校英語教員対象の年3回の研修に市立高校2校から英語教員各1人の参加
- 教科等主任会、教育課程研究協議会にも市立高校2校より英語教員各1名が参加し、取組を発表する。
- 高等学校における公開授業
- 評価についての研究・検証
- 研究のまとめ

平成27年度の進捗状況・課題

- 毎月1回程度の担当者会を開催し、研究開発を推進している。担当者会には、小・中・高校の担当者及び教育委員会関係者が毎回参加し、小・中・高校の円滑な接続を目指した取組がなされつつある。
- 2校の各モデル校での公開授業（小中合同開催）を実施し、研究成果の普及に努めた。他の小学校2校についても、1月～2月に実施予定である。
- 平成27年度は、小・中・高校を通じたCAN-DOリスト（案）を作成し、小・中・高校で目指す英語力について共通理解が図られつつある。
- 小学校では、文部科学省の補助教材ワークシートや本市独自の補助教材（マイABCパスポート）を活用しアルファベットを書くことに慣れ親しんでいる。子供たちの「文字を書きたい」という意欲が見られるようになってきた。各学年とも、「進んで授業に参加している」の方向に変容が見られ、コミュニケーションを図ろうとする態度が身に付いてきている。
- 中学校では、教師による一斉指導を減らし、ペアやグループでの活動を仕組むことで、生徒の英語使用量を増やすことができた。また、最初にゴールを示すことで、教師は目指す方向がぶれない。そのために必要なことを準備し、段階的に指導することができている。

- 高校では、GTECや英検などの外部試験を活用し、生徒の英語力を客観的に把握し、個々の指導する機会を増やすことで、英語力の伸長につなげることができた。
- 小・中・高校の円滑な接続を目指して、高校卒業時にどの程度の英語力を目指すのかを今後、更に明確にする必要がある。そのためには、英語教育に関して小・中・高校それぞれの段階でどの程度の英語力を目指すのか、共通理解と共通実践が必要である。その上で、小中連携、中高連携を更に推進していかなければならない。
- CAN-DO リストについては今年度作成したものの、実質的な評価までは至っていない。活用することで、今後、更に、小・中・高連携の視点から内容を見直していく必要がある。

(6) 評価計画 ※平成27年度新規採択件については、第一年次から第三年次まで記載する。

第一年次～第四年次、校種別

【第一年次】

- | | | | |
|--------|-------|-----------|-----------------|
| ① 小学校 | ・実態調査 | ・全国標準学力検査 | |
| ② 中学校 | ・実態調査 | ・全国標準学力検査 | ・スピーキングテスト・英語検定 |
| ③ 高等学校 | ・実態調査 | | |

【第二年次】

- | | | | |
|--------|-------|-----------|-----------------|
| ① 小学校 | ・実態調査 | ・全国標準学力検査 | ・チャレンジタイム |
| ② 中学校 | ・実態調査 | ・全国標準学力検査 | ・スピーキングテスト・英語検定 |
| ③ 高等学校 | ・実態調査 | | |

【第三年次】

- | | | | |
|--------|-------|------------|-----------------|
| ① 小学校 | ・実態調査 | ・全国標準学力検査 | ・チャレンジタイム・児童英検 |
| ② 中学校 | ・実態調査 | ・全国標準学力検査 | ・スピーキングテスト・英語検定 |
| ③ 高等学校 | ・実態調査 | ・スピーキングテスト | |

【第四年次】

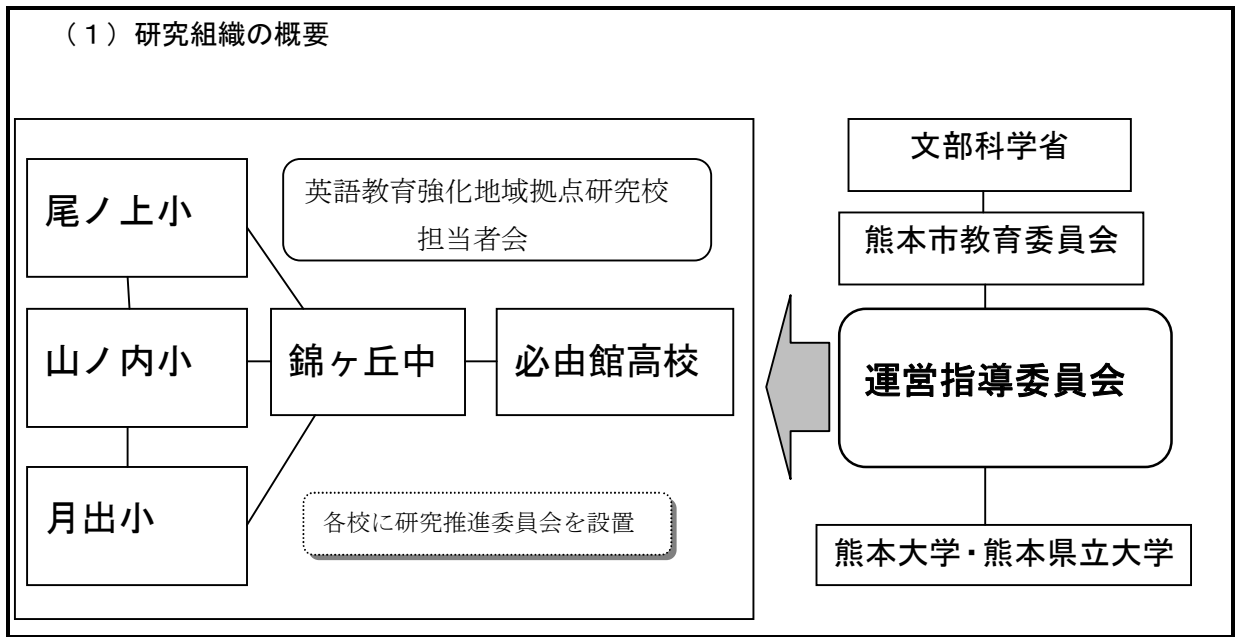
- | | | | |
|--------|-------|------------|-----------------|
| ① 小学校 | ・実態調査 | ・全国標準学力検査 | ・チャレンジタイム・児童英検 |
| ② 中学校 | ・実態調査 | ・全国標準学力検査 | ・スピーキングテスト・英語検定 |
| ③ 高等学校 | ・実態調査 | ・スピーキングテスト | |

平成27年度の進捗状況・課題

- 研究内容の評価については、1月～3月にかけて、児童生徒へのアンケート調査や英検等の外部試験の結果から、詳細な分析を行うとともに、経年比較を行う予定である。

4. 研究組織

(1) 研究組織の概要



(2) 運営指導委員会

①活動計画

- 英語教育強化地域拠点事業の運営について、次の点について専門的見地から指導、助言、評価を行う。
 - ・ 運営及び研究開発についての指導助言に関すること。
 - ・ 年度末及び指定期間終了時における事業評価に関すること。
 - ・ 研究成果を普及する方策についての指導助言に関すること。
 - 年に2回の運営指導委員会を実施する。
- 平成27年度の進捗状況・課題
- 今年度は、運営指導委員会の実施が遅くなってしまった。1月に開催するが、今年度の研究成果及び次年度に向けた方向性に指導・助言をいたく予定である。次年度は、予定時期に開催し、研究の充実を図る予定である。

5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○全小学校第3, 4学年において週1回の「外国語活動」授業開始 ○全小学校第5, 6学年において「外国語活動」と「教科型英語」のそれぞれ週1回の授業開始 ・ 熊本市研究指定校連絡会への参加 ・ 標準学力検査 NRT の実施 ・ 第1回英語教育強化地域拠点事業担当者会 	

5月	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校外国語活動・中学校英語科主任会において周知 ・各校校内研修 [校内研究への位置付け、計画立案、校内研究組織づくり] 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校英語公開授業と授業研究会（幼小中連携の日） ・英語教育推進リーダー中央研修参加 ・第2回英語教育強化地域拠点事業担当者会 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回英語教育強化地域拠点事業担当者会 ・年間指導計画及び授業の実施状況検証 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・第4、5回英語教育強化地域拠点事業担当者会 ・熊本市イングリッシュキャンプへの参加（19日～21日） ・教育課程研究協議会において研究の概要について報告 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育推進リーダー中央研修参加（小学教員） ・先進校視察 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校授業研究会（英語）への参加 [学びわくわく授業研究会] ・尾ノ上小学校、錦ヶ丘中学校（モデル校）公開授業 ・第6回英語教育強化地域拠点事業担当者会 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・第7回英語教育強化地域拠点事業担当者会 ・英語教育推進リーダー中央研修2に参加（中学教員） 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画及び授業の実施状況検証 ・英語教育推進リーダー中央研修2に参加（小学教員） ・第8回英語教育強化地域拠点事業担当者会 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校公開授業と授業研究会（幼小中連携の日） ・中学校1、2年英語検定（23日） ・山ノ内小学校（モデル校）公開授業（本市、熊本県、近隣県） ・第9回英語教育強化地域拠点事業担当者会 	第1回運営指導委員会 （錦ヶ丘中学校）
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・先進校研究視察 ・研究のまとめ、反省と志向 ・第10回英語教育強化地域拠点事業担当者会 ・小学校授業研究会（外国語活動）への参加学びわくわく授業研究会] ・月出小学校（モデル校）公開授業（本市、熊本県、近隣県） 	第2回運営指導委員会 （尾ノ上小学校）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の計画 ・中学校スピーキングテスト（1、2年） 	
<p>【その他の取組】※あれば記入</p> <p>○小学校では、週に1回、朝自習の時間に英語活動を行う。（ただし、平成27年度は学校裁量として取扱い、時数にはカウントしていない。）</p>		